

都道府県名	石川 県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	金沢市立西南部中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	合 計	教 員 数
学級数	8	8	8	0	24	44
生徒数	296	287	304	0	887	

研究の概要

1 研究主題

「確かな学力の育成をめざして - 指導方法、指導体制等の工夫改善を図る - 」
--

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

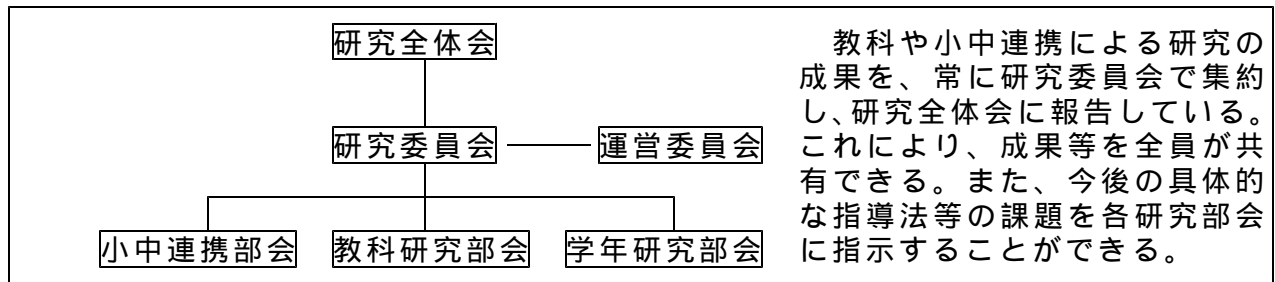
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年 数学 入学した段階で学力差が見られ、数学に対する苦手意識が強い。算数から数学へのスムーズな切替と基礎学力の確実な習得を目指すため。 ・ 3年 英語 学年が進むにつれ学力差が大きくなる。確実な基礎学力の習得とともに、個に応じた指導を通して英語活用能力の向上を図るため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学力向上のための指導方法の工夫改善と個に応じた指導のための教材開発 研究の見通し 基礎学力の定着が不十分で、授業に意欲を欠く生徒が見られる。そこで指導法の工夫改善を図り、わかりやすい授業を通して基礎学力の定着を図る。これにより学習意欲の向上と個に応じた指導を行うことができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導法等の工夫改善を図る。 ・ 学力評価を生かした指導の改善を図る。 ・ 個に応じた指導のための教材開発を行う。 ・ 小学校との連携を図り教育課程の研究を行う。
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 学力向上のための指導方法の工夫改善と個に応じた指導のための教材開発 研究の見通し 基礎学力の定着を図るとともに、個に応じた指導を推進することにより、確かな学力及び学習意欲の向上を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導法等の工夫改善を更に図るとともに、他の教科にもそれを波及させる。 ・ 学力評価を生かした指導法の改善を図り、確かな学力を身に付けさせる。 ・ 個に応じた指導のための教材開発を行う。 ・ 小学校との教育課程の研究を実践化する。
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

数学科では、当初チームティーチングで、生徒が数学に慣れることを主眼として取り組んだ。その後、少人数授業として習熟度別授業を行い、個に応じた指導法等の工夫改善を図っている。

毎学期末に少人数授業についてのアンケートを行っている。2学期は、「授業がよくわかる」、「授業が楽しい」、「発言しやすい」などといった肯定的な回答が8割あった。生徒は、少人数授業を概ね好意的に捉えている。

習熟度別授業の基礎コースを選択した生徒の平均点は、徐々にアップし、基礎学力の定着が図られつつある。特に2学期の定期テストで、前回より点数がアップした生徒が64%を占め、学習意欲の向上が見られる。また、発展コースでも同様の生徒が62%を占めた。そして、2学期の2回の定期テストの相関表では、高得点域で相関が強くなっている。このコースの生徒は、授業に対する姿勢がより積極的になってきた。

英語科では、授業にコミュニケーションアクティビティを取り入れるように努めている。その結果、生徒は、概してコミュニケーションに対する抵抗が少なく、英語活用能力の向上が図られている。また、生徒の理解度に応じたプリントを作成し、確実な基礎学力の習得を目指している。

個に応じた指導は、理科においても推進し、2年では、毎時間少人数授業を実施している。特に実験が少人数であるため、実験のまとめを個別に指導・支援することができる。また、本校生徒が苦手としている公式の活用についても十分な練習を行い、指導することができるため、計算力の向上が図られている。更に3年でも、個に応じた指導を積極的に実施し、単元によっては、生徒の興味・関心に基づいて1学級を2つの集団に分割し、発展的な実験や補充学習を行っている。これにより、生徒の学習意欲は高く、実験レポートの内容等も充実してきた。

県の基礎学力調査の結果をもとに、校区内の小学校と情報交換を進めている。特に通過率の悪い問題について、考えられる原因及び学習指導上の対応等を分析し、小・中学校の教育課程の研究を行っている。現在のところ、各教科でどのように読解力や表現力をつけていくかが課題となっている。

2 今後の課題

習熟度別授業、チームティーチング、興味・関心に基づいたクラス編成による少人数授業等により、確実に生徒の学習意欲が高まり、基礎学力の定着が図られつつある。今後、学力評価を生かし、更に個に応じた指導法等の工夫改善に取り組む。その際、「少人数による授業アンケート」結果にもあるように、生徒同士の学び合いを大切にしたい指導法にも力を入れる。また、研究委員会が中心となり、効果的な指導法を他の教科に波及するように校内の研究を進める。そして、研究成果を校外に効果的に普及させていく。

数学科の習熟度別授業で、基礎コースにおいても大きな学力差が見られる。そのため学習内容の理解及び学習意欲の低い生徒に対しては、個別指導を通して学習内容の理解や基礎学力の定着を図るための指導及び教材開発を行わなければならない。その際、小学校との教育課程の研究等を生かすとともに授業研究を深めるように努めたい。

本校生徒の学習習慣や生活規律の定着は不十分である。そのため、学校での学習と家庭学習とがつながる指導が求められる。校区内の小学校と連携し、学習習慣や生活規律の確立を目指しながら基礎学力の定着を図りたい。

学力把握のための学校としての取組

「少人数による授業アンケート」学期末に実施。3月にも予定。

数学科では、当初ティームティーチングで、7月から少人数授業、9月から習熟度別授業を実施している。このアンケートで、授業形態の変化に対する生徒の意識の変化を調査する目的で行った。

まず、“少人数授業の分かりやすさ”を肯定的に捉えている生徒は、71%から84%に増加している。中でも、授業で“分からないところを詳しく教えてもらえる”と感じている生徒は、63%から88%に急増している。そして、“少人数授業がもっと増えたらいい”と思っている生徒は、46%から58%に増加している。したがって、生徒は少人数授業を受け入れていると考えられる。

次に、習熟度別授業で個に応じた指導法等の工夫改善に取り組んでいる。しかし、実際に“授業内容の理解力がついてきた”と感じている生徒は、53%から60%と微増である。また“少人数授業で友だちとの学び合い等ができています”と感じている生徒は、72%から69%に減少している。習熟度別授業では、どちらかといえば個に関わる指導に重点を置いている嫌いがあるため、生徒は学び合いが不十分だと感じているようだ。

以上の結果より、今後、自由に発言・発表でき、生徒同士の学び合いを大切にしたい指導法等の工夫改善を図らなければならない。

診断テスト 新しい単元に入る前に実施。

数学科では、新しい単元に入る前に診断テストを実施し、習熟度別学級編成の資料としている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力フロンティアスクールの取組をまとめる。

(学校の研究紀要の他に、フロンティアスクールの取組を研究紀要の別冊としてまとめ、市内の学校に配布する。)

研究発表会を設定する。

(平成16年10月22日に、授業公開と本校の取組の発表会を予定している。発表会を通して、本校の研究の成果を普及させたい。)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|---------------------------|------------------------------|------------|---------------|
| 【新規校・継続校】 | ・ 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下
7～9学級
13～15学級 | 4～6学級
10～12学級
・ 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | ・ 少人数指導
その他 | ・ T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | 国語
・ 外国語
保健体育 | 社会
音楽
その他 | ・ 数学
美術 | ・ 理科
技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ・ 有 | 無 | | |